
涼音の精霊使い

機月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

涼音の精霊使い

【Nコード】

N7659Z

【作者名】

機月

【あらすじ】

橙乃ままれ先生『ログ・ホライズン』二次創作。

MMORPG<エルダー・テイル>に取り込まれてしまったプレイヤーの、ちよつと(?)の気の抜けた日常です。

幾つか独自ガジェットをねじ込みますが、ご了承ください。

<武闘家>の打帆、<召喚術師>の奏羽のサバイバルが開始しました。

最初の取っ掛かり（五月のお使い）

『実感したのは初めてかもー うん、考えるしか出来ないって、ちよつと楽しいー』

薄く小さく閉じた視界を、何かが通る。

左手に乗る器は、その重みを変えない。

右手が掲げた鈴が、わずかに音を立てる。

『どつちかって言うと、ハインド・タイム技後硬直になるのかなー でも階級上げて伸びたつてことは、効果時間？ 動けなくても？』

目の前に止まった塊が、こちらに向けて伸び、そして縮む。

左手の器が、かすかに重みを増す。

それに応じて右手の鈴が、先ほどとは異なる音で鳴る。

『何を受け取ったか分からないのが玉に瑕ー ……でもないか。果物なら食べたくなるだけだし、虫とか入れられても食べない訳にはいかないんだし』

影が流れる。

鈴が揺れる。

その視界は暗く、鈴は己の意思では動かない。

『シュうん、きちんとお礼が出来ないのは問題だよねー コモン・ウイッチく俗なる祈呪は効果がランダムだっていうし』

身体に降りた古き神々が、願う者に授ける本当に小さな奇跡。それはく冒険者くを通す故に発現し、それ故にわずかに世界を歪ませ

る呪い。だから代償には己の一部を差し出す必要があり、それは日頃の糧に代替される。

『【托鉢】かー。流石に小石は無理だったけど。混じった砂を避けるのも大変だけど……でも見た目悪くても、日々変わるの味だし！どっちも拷問なら……うん、やっぱりどう考えても拷問！』

唐突に生じる、何かが逃げてゆく感覚。

確かに感じていた色と、確かに見えていた音が、急激に薄れるて散ってゆく。

知覚には枷が填められ狭まり、だが光が差し、色が付き、形を取って、そこに意味が現れる。

目の前の景色は、何かを失ってようやくありきたりの、けれども偽物の日常として認識できるようになる。

「お勤めご苦労様ー、自分。それからお布施ありがとー、知らない人たち」

狭い空は鈍色で、冷たい雨を降らせていた。薄汚れた四角い塔が辺りを囲んでいて、そのあちらこちらを欠いてなお、天に挑む体を崩さない。

足下は、どうしようもないもので溢れていた。硬く固められた地面は至るところで割れ、草が芽吹き、根が張り出している。壁際に並ぶ板造りの店には、店番どころか物すら並んでいない。

代わりに、天を仰ぐか地を睨むかするだけの人たちが幾人も転がっていた。薄汚れた金属鎧も、古めかしいローブも、廃墟に馴染みこそすれ、余計なものにはなり得ないはずだった。

けれどもその全てを、無気力さが覆いつくして台無しにしていた。

「あ、箒……に笠？ 誰が掛けてくれたんだろー」

日向と雨の匂いを染み込ませた藁が二度三度と揺れて、縁を摘まれた笠が頭上に戻る。

左手の器には細い竹で編まれた小さな笊が被せられていた。覗いた中には、手のひらに乗るほどの底の深い碗。その半分ほどまで、米に小麦、大麦といった穀物が山と盛られていた。幾分雨に晒されたようだが、わずかに湿っている程度で煮炊きする分には支障はない。

「埋まってるのは、木の実にきのこつてところかー …… それにしてもく冒険者>って頑丈で便利。こんなに濡れても、全然寒くない。あんなに冷え性で、困っていたのにねー」

見下ろした身体は、すっかり雨に濡れそぼっていた。赤い繻子の旗袍チャイナドレスは、深い臍脂に変わって細い体に張り付いている。袖はなく、剥き出しの二の腕は白いくせに赤みを帯びて艶やかだった。深い切れ込みから覗く足は、白絹の靴下に肌が透けている。

「さつさと帰って着替えよー 風邪引いたら洒落にならないし。…あれ、でも『風邪薬』を試してみる絶好の機会だったりして」

見上げた空に、虹は見えない。

それでも、この世界には【異世界エルダー・テイル】を定義する意志が存在して、そして確かに正邪を問えない【恩寵システム】が存在するのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7659z/>

涼音の精霊使い

2011年12月25日00時51分発行